

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-80638

(43)公開日 平成6年(1994)11月15日

(51)Int.Cl.⁵

B65D 21/02

識別記号

303 Z 9840-3E

A 9840-3E

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 OI (全 4 頁)

(21)出願番号 実開平5-21869

(22)出願日 平成5年(1993)4月26日

(71)出願人 391014642

有限会社川原商店

兵庫県津名郡津名町大谷896番地の1

(72)発明者 川原 茂

兵庫県津名郡津名町大谷896番地の1

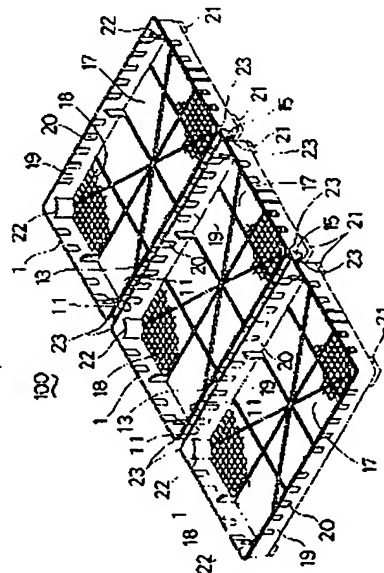
(74)代理人 弁理士 倉内 義明

(54)【発明の名称】 包装用かご

(57)【要約】

【目的】 互いに連結した複数個のかご本体を、カッター等の工具を用いることなく軽い手作業で分離できるようにした包装用かごを提供する。

【構成】 各かご本体1は、側縁11同士がこの各側縁11の中間部に配置した縦状体13と各側縁11の外端部23に配置した千切り片15とを介して連結され、この千切り片15を切除するとともに各外端部23を把持し、ある程度の力を加えて急激に引き延ばして縦状体13を切断してかご本体1同士が分離されるように構成されたことを特徴としている。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 内容物を入れる空間を保って段積みできる複数個のかご本体を横方向に連設して、この連設部分を手作業で分離できるようになされた包装用かごであって、各かご本体は、その少なくとも一つの側縁同士がこの各側縁の中間部に配置した線状体と各側縁の外端部に配置した千切り片とを介して連設され、この千切り片を切除するとともに各外端部を把持し、ある程度力を加えて急激に引き延ばることにより、線状体を切断することにより、かご本体同士が分離されるように構成されたことを特徴とする包装用かご。

【図面の簡単な説明】

【図1】 三個のかご本体を三連状に連設した包装用かごの斜視図である。

【図2】 かご本体の側縁および側縁同士の連設状態を示す拡大断面図である。

*

* 【図3】 千切り片の連設構造を示すかご本体の側縁外端部の斜視図である。

【図4】 かご本体の連設部を分離する作業状態を示す微視斜視図である。

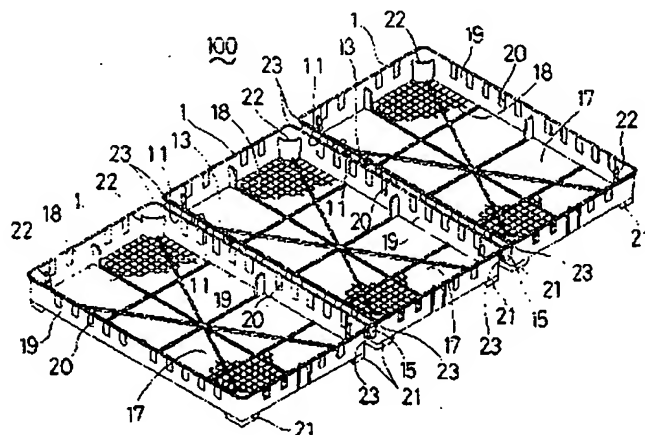
【図5】 四個のかご本体を田の字状に連設した包装用かごの斜視図である。

【図6】 田の字状に連設した包装用かごの中央部を拡大して示す平面図である。

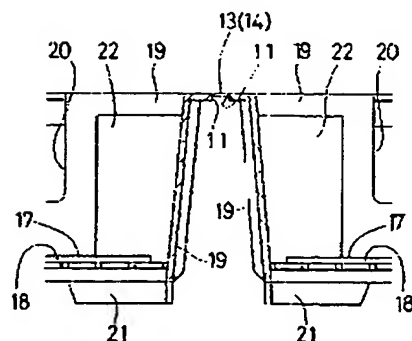
【符号の説明】

1 かご本体
11、12 側縁
13、14 線状体
15、16 千切り片
23、24 外端部
100、200 包装用かご

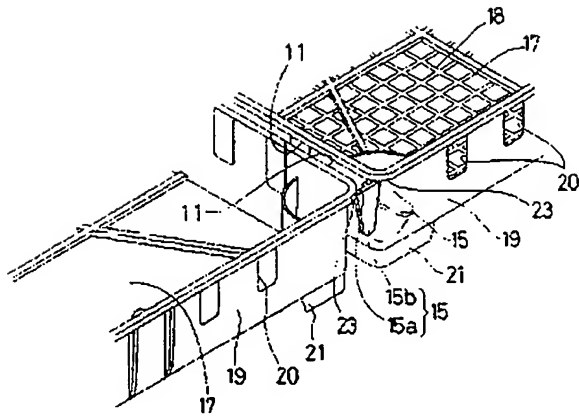
【図1】



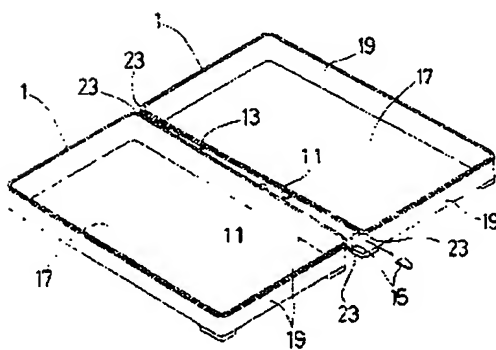
【図2】



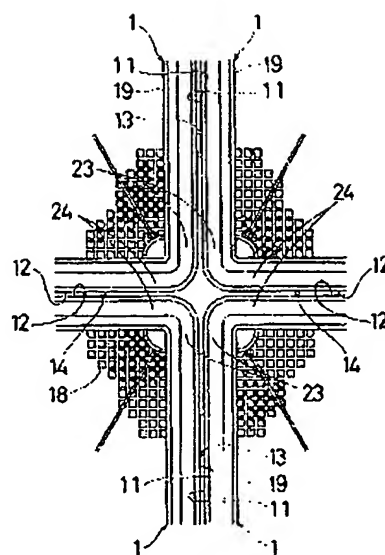
【図3】



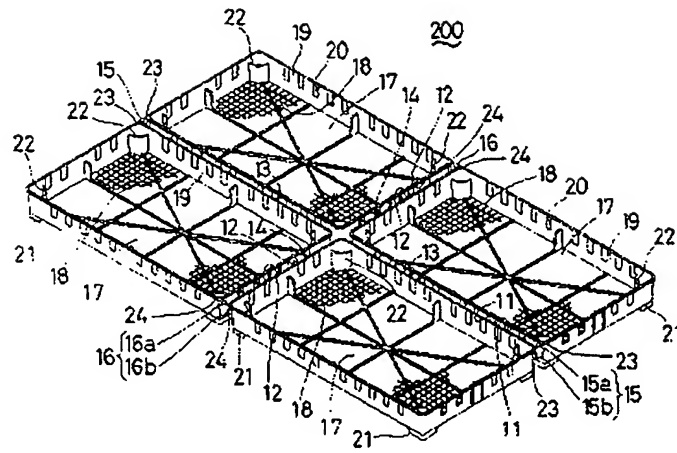
【図4】



【図6】



【図5】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

この考案は、内容物を入れる空間を保って段積みできる複数個のかご本体を横方向に連設したこの連設部を手作業で分離できるようになされた包装用かごに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、いかなごのような小魚等を入れて包装する包装用かごとして、複数個のかご本体が連設されたものがあった。この包装用かごは、必要に応じて連設部をカッターで切断して小魚等が収容された個々のかご本体を販売に供するようになしていた。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

ところが、この従来例の包装用かごは、連設部を必要に応じてカッターで切断しなくてはならないため、この切断作業は危険で煩わしい等の問題があった。

【0004】

本考案はこのような問題を解決するため創作されたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

この考案の包装用かごは、内容物を入れる空間を保って段積みできる複数個のかご本体を横方向に連設して、この連設部分を手作業で分離できるようになされた包装用かごであって、各かご本体は、その少なくとも一つの側縁同士がこの各側縁の中間部に配置した線状体と各側縁の外端部に配置した千切り片とを介して連設され、この千切り片を切除するとともに各外端部を把持し、ある程度の力を加えて急激に引き抜けることにより、線状体を切断することにより、かご本体同士が分離されるように構成されたものである。

【0006】

【作用】

この種の包装用かごは、かご本体がそれぞれ連設した状態で使用されることも、また、一つ一つ分離した状態で使用されることもある。

【0007】

この考案の包装用かごは、連設した複数個のかご本体を、カッター等で切断することなく手作業で引き離して使用することができる。

【0008】

しかも、かご本体同士は、各側縁の相互間に形成した線状体と千切り片とにより連設されているため、連設した複数個のかご本体は、上下方向にかなりの力が加わっても不用意に分離するようなことはない。

【0009】

【実施例】

以下、本考案に係る包装用かごを図面に示す実施例に基づいて説明する。

【0010】

実施例1

この実施例1は、包装用かごが三連状に連設されたものである。

【0011】

図1は三個のかご本体を三連状に連設した包装用かごの斜視図、図2は、隣合うかご本体の側縁およびこの側縁同士の連設状態を示す部分拡大断面図、図3は、隣合うかご本体の側縁の外端部およびこの外端部同士の連設状態を示す斜視図、図4は、かご本体の連設部を分離する作業状態を示す概要斜視図である。

【0012】

図中の符号100は、内容物を入れる空間を保って段積みできる複数個のかご本体1を三連状に連設して手作業で分離できるようになされた包装用かごを示している。

【0013】

本例では、三個のかご本体1を三連状に連結しているが、二個もしくは四個以上連結してもよい。

【0014】

包装用かご100は、内部にいかなごのような小魚を入れて、複数段に積み重

ねられて茹でる作業が行われる。このとき、各かご本体1の連設部は不意に分離しない強度が必要である。

【0015】

ところが、茹で上げた小魚を販売に供するときは、包装用かご100をかご本体1ごとに分離して使用する。たがって各かご本体1は容易に分離できるものでなくてはならない。

【0016】

かご本体1の隣合う各側縁11同士は、それぞれ線状体13および千切り片15を介して連設されている。

【0017】

線状体13は、図2に示すように隣合った各側縁11の中間部に少なくとも一つが配置されたもので、この各側縁11の外端部23を把持し、ある程度の力を加えて急激に引き上げるとき、容易に切断するように、たとえば円形もしくは矩形断面に形成するとともに外端部23からの位置を選択して配置されている。

【0018】

なお、線状体13は、梱包作業時や運搬時等の外力では切断しない程度に形成されている。

【0019】

また、線状体13と千切り片15との間にさらに別の線状体を形成したものであってもよい。

【0020】

千切り片15は、図3に示すように、隣合った各側縁11の外端部23に配置されたもので、舌片状に形成した上端縁15aの両端部を各側縁11の下面に対し点接続もしくは線接続で連設してそのつまみ部15bが下向きに設けられている。

【0021】

かご本体1同士を分離するには、図4に示すように、隣合ったかご本体1の各側縁11の外端部23に設けた千切り片15のつまみ部15bを比較的弱い力の手作業で上方へ折り曲げて千切り片15を切除するとともに、各外端部23を把

持し、ある程度の力を加えて急激に引き上げることにより、線状体13を切断して、包装かご100のかご本体1同士が分離される。

【0022】

本例では、かご本体1の分離を千切り片15の切除から始めているが、これに代えて、線状体13の切断から始めてもよい。

【0023】

なお、本考案包装用かご100は、合成樹脂材により形成されている。線状体13および千切り片15もかご本体1に対し合成樹脂材により一体に形成されている。

かご本体1の底部17にはかこの目18が、周囲壁19には窓孔20が、いずれも小魚が抜け出ない程度の大きさ、形状に形成されている。

【0024】

かご本体1の内部四隅部には、上に載せるかご本体1の脚部21を載置するコーナーリブ22が設けられている。したがって、かご本体1あるいは包装用かご100は、内容物を入れる空間を保って段積みすることができる。段積みしたかご本体1あるいは包装用かご100は横ずれすることがなく、荷崩れするおそれもない。

【0025】

包装用かご100は、内部にいかなごのような小魚を入れ、ひもやバンドで例えば10段に段積み梱包した状態のままで湯通しをして出荷される。小売店の店頭では、各かご本体1に分離して販売に供される。

【0026】

実施例2

この実施例2は、包装用かごが田の字状に連設されたものである。

【0027】

図5は、四個のかご本体を田の字状に連設した包装用かごの斜視図である。図6は、図5の中央部を拡大して示す平面図である。

【0028】

図中の符号200は、内容物を入れる空間を保って段積みできる複数個のかご

本体1を田の字状に連設して分離できるようになされた包装用かごを示している。

【0029】

かご本体1の隣合う側縁11同士および側縁12同士は、それぞれ線状体13、14および千切り片15、16を介して連設されている。

【0030】

線状体13は、隣合った側縁11の中間部に配置されたもので、この各側縁11の外端部23を把持し、ある程度の力を加えて急激に引き抜けると、容易に切断するように、たとえば円形もしくは矩形に形成するとともに外端部23からの位置を選択して配置されている。

【0031】

また、線状体14も同様に、隣合った側縁12の外端部24を把持し、ある程度の力を加えて急激に引き抜けると、容易に切断するように、たとえば円形もしくは矩形断面に形成するとともに外端部24からの位置を選択して配置されている。

【0032】

千切り片15は、隣合った側縁11の外端部23に対し実施例1の場合と同様の連設構造で設けられている。

【0033】

また、千切り片16も図5に示すように、舌片状に形成した上端縁16aの両端部を各側縁12の下面に対し点接続もしくは線接続で連設してそのつまみ部16bが下向きに設けられている。

【0034】

上記したほかの構造部分は、実施例1の場合と同様に構成されている。

【0035】

本例でのかご本体1同士の分離は、たとえば、かご本体1の外端部23に設けた各千切り片15を切除するとともに、外端部23を把持し、ある程度の力を加えて急激に引き抜けることにより、線状体13を切断したのち、他の外端部24に設けた各千切り16を切除するとともに、外端部24を把持し、ある程度の力

を加えて急激に引き抜けることにより、線状体14を切断して包装用かご200のかご本体1同士が分離される。

【0036】

なお、本例の包装用かご200は、合成樹脂材により形成されている。線状体13、14および千切り片15、16もかご本体1に対し合成樹脂材により一体に形成されている。

【0037】

包装用かご200は、実施例1の場合と同様に段積みすることができる。段積みしたかご本体1もしくは包装用かご200は横ずれすることがなく、荷崩れするおそれもない。

【0038】

包装用かご200は、内部にいかなごのような小魚を入れ、ひもやバンドでたとえば10段に段積み梱包した状態のままで湯通しをして出荷される。小売店の店頭では、各かご本体1に分離して販売に供される。

【0039】

【考案の効果】

この考案の包装用かごを構成するかご本体は、その少なくとも一つの側縁同士が線状体および千切り片を介して連設されているから、上下方向にかなりの力が加わってもかご本体同士が不意に分離するようなことはない。

【0040】

したがって、包装用かごにいかなごのような小魚を入れて茹でる作業も安心して行える。

【0041】

また、この茹でた小魚の入ったかご本体は、各かご本体の隣合った側縁の外端部の千切り片を切除するとともに、この各外端部を把持したまま引き抜けて線状体を切断することにより、かご本体同士を分離させて販売に供することもできる。

。